

最後までがんばった「紅組・白組」の熱戦!
町内3小学校で運動会を開催

みんな
がんばったね!!



5月、町内の3小学校で運動会が行われました。各小学校とも紅組・白組の熱戦が繰り広げられ、訪れた保護者や地域の方々は大きな声援を見童に送っていました。各小学校の児童の活躍を写真で紹介します。

只見小学校(5月20日)

種目:「紅白応援合戦」「巻き起こせ!上学年旋風!」



朝日小学校(5月20日)

種目:「育ち盛りの君達へ」「レッツ、恋ダンス!!」「ラヴ只見」



明和小学校(5月14日)

種目:「大倉八木節」「絆(組体操)」「鼓笛パレード」



田植えイベント KARIYASU'17 「100人手植え」開催！！

㈱RISEAPEURの目黒大輔さんとさんべ農園の三瓶清志さんが主催する田植えイベント「KARIYASU'17『100人手植え』」が5月20日に季の郷湯ら里前の田んぼで開催され、町内外から約100名が参加しました。

今年はイベントで手植えた米を使った米焼酎「ねっか」をプレゼントするプランが新たに設けられ、人気を集めました。また、只見高校・南会津高校の3年生を対象とする、酒米づくりから酒造りまで挑戦し、完成した酒を成人の日にプレゼントする「18歳の酒プロジェクト」も共同開催し、高校生も一緒に手植えを行いました。

あわせて会場では超小型モビリティ「me-go(めご)」の試乗体験も行われ、参加者は最新技術を取り入れた農業に触れることができました。



▲(写真/大人から子どもまで多くの方が参加した手植えイベント)夜には青少年旅行村で交流会が行われ、今年は㈱スノーピーク社製の高級テントでの宿泊体験も実施しました

只見町ブナセンター 春の観察会 第1弾「春植物の花園を歩く」

5月3日、春の観察会第1弾が黒谷川沿いを観察地にかかれ、町内外から17名が参加しました。観察会は、雪解けとともに咲き、夏には葉を枯らし姿が見えなくなる「春植物」について、黒谷川上流部へ移動しながら観察しました。「春植物」とは、他の植物が茂る前に花を咲かせ葉を開き、栄養を根に蓄え、夏には葉を落とし、根や地下茎だけの状態で次の春を待つという戦略をとった植物です。今年はカタクリ、キクザキイチゲ、フクジュソウが咲いており、他にも雪解け後に開花するケアブラチャンの小さな黄色い花などを見ることができ、文字通り春植物の花園を歩く事ができた観察会となりました。



▲斜面に群生するフクジュソウを観察



▲癒しの森を観察した参加者の皆さん

癒しの森を観察した参加者の皆さん、ブナセンター企画展で紹介している日本海要素植物などについて参加者に説明しました。

また、戸板山眺めではブナの新緑、オオイワウチワの花を観察し、只見の春を感じた観察会となりました。

第2弾「春のブナ林を歩く」

5月4日、春の観察会第2弾が癒しの森を観察地に行われ、県内外から22名が参加しました。今年はブナの開花年ということもあり、たくさんのブナの子葉を見つけ観察することができました。観察会は、ブナの新緑や林床に生える植物、4年前に倒れた国界の大ブナなどもみることができ、その中で癒しの森の過去の森林利用や植生の移り変わり、ギャップ更新や樹木の世代交代、ブナセンター企画展で紹介している日本海要素植物などについて参加者に説明しました。

米づくりから米を活用した焼酎づくりまでを学ぶ 明和小学校「田植え体験」を実施

明和小学校、明和地区の農家の方々、明和自治振興会が連携して実施している明和小学校5年生の田植え体験学習が5月16日に行われました。今年から梁取地区の焼酎製造会社「ねっか」の工場見学も加わり、米づくりから米の活用までを学びました。

米焼酎「ねっか」の工場見学では、ねっか代表の脇坂齊弘さんから、お米でつくる焼酎造りについて説明を聞き、児童たちはお米や水といった地域資源の魅力や製造方法を学びました。また、大倉地区のさんべ農園の圃場で行われた田植え体験では、さんべ農園代表の三瓶清志さんから今回植える苗(天のつぶ)などについて説明を受け、その後実際に「手植え」や「田植え機の試乗」により苗を植えました。全ての体験を終えた児童たちからは、「お米の大切さが分かりました」と感謝の言葉が伝えられました。

今回の田植え体験で作られたお米は、米焼酎「ねっか」として児童たちが二十歳を迎える10年後にプレゼントされる予定で、ねっか代表の脇坂さんは「10年間寝かせる酒と一緒に成長して下さい」と話されました。



▲米焼酎の製造方法を熱心に学ぶ児童の皆さん



▲手植えを体験する児童の皆さん

新しい地域おこし協力隊が只見町へ! 2名の新たな力が加わる

町の山村振興と空き家の活用を推進するために、5月から新たに2名の地域おこし協力隊が加わりました。隊員2名は「山村振興協力隊」、「空家活用促進隊」として、森林の分校ふざわや明和振興センターで活動していきますのでご紹介いたします。



ふじぬま こうへい
藤沼 航平さん(26歳)

勤務地/森林の分校ふざわ
(山村振興協力隊)

出身地/栃木県
大学/宇都宮大学
農学部農業経済学科
前職/全農とちぎ
趣味特技/バドミントン・山登り

《メッセージ》

この度、地域おこし協力隊となった藤沼航平です。大学時代から7年間只見町へ通い続け、ついに只見町民になってしまいました。

森林の分校ふざわを中心に只見を盛り上げ、只見に住んで、訪れて「楽しい!」と思えるような集落を創ることが目標です。



おおたけ ゆか
大竹 友香さん(37歳)

勤務地/明和振興センター
(空家活用促進隊)

出身地/福岡県
大学/宮崎大学大学院
農林生産学専攻
前職/福岡県庁
趣味特技/映画鑑賞、ハーブ栽培、
フラワーアレンジメント

《メッセージ》

この春、福岡から参りました大竹友香です。只見町の春はブナの芽吹きが美しく、清々しい気持ちで新生活をスタートさせていただいています。『ひと・暮らし・業』を繋げていくことで空き家の利活用に寄与できればと志しております。どうぞよろしくお願いたします。

仲間と一緒に楽しく運動！ 第1回「からだ塾」実施

只見振興センターが主催する、健康寿命を延伸する取組み「からだ塾」が5月11日、同センターで開かれ25名が参加しました。参加者は、ただみコミュニティクラブのスタッフと一緒に体操やカーリングなどの運動を行い、心地よい汗を流しました。

今年度の「からだ塾」は全26回(月3回程度)計画されており、「都合の良い時に気軽に誘い合って参加して欲しい」との説明がありました。皆さんも是非参加してください。



▲カーリングで体を動かす参加者の皆さん

只見4名山の山開き初陣 「要害山」山開き

5月14日、JR只見駅の裏に位置する「要害山」の山開きが開かれ、町内外から約200名が参加しました。

開山式では、安全祈願による神事が行われ、主催者挨拶で菅家町長は「要害山のブナの新緑の他、只見の観光など満喫してもらいたい」と述べました。その後、参加者は登山者カードと引き換えに国指定の天然記念物「ヤマネ」が描かれた記念バッジを受け取り、新緑の要害山へ登って行きました。



▲神事で安全を祈願する菅家町長と参加者の皆さん

只見の風景や雪の山村などの作品並ぶ 渡部等さんの「油絵展」開催

只見町(小川)の画家、渡部等さんの油絵展が5月9日、季の郷湯ら里のロビーで始まりました。この油絵展では、只見川などの風景や雪が積もった集落などが描かれた作品35点を展示しており、赤色や青色を基調にした色合いが幻想的な作品が並んでいます。今冬に描いた新作を中心に、只見の風景や雪の山村など美しい風景が鑑賞できる油絵展は、6月13日まで開催されています。



▲只見町、南会津町、越後のはさ木などの景色が描かれた油絵展

景観・環境美化の推進活動！ 朝日地区「ちょボラごみ拾い」

朝日地区地域づくり委員会が主催する「ちょボラごみ拾い」が5月14日に行われ、小学生から大人まで地域住民55名が参加しました。ごみ拾い活動は、朝日地区の国道や県道など4コースに分かれて行われ、今回集めたゴミの量は47袋、総量約330kgとなりました。「ちょボラごみ拾い」は秋にも開催される予定で、その他ゴミ捨て禁止の看板を集落に設置し、地域の景観・環境美化を推進していきます。



▲オレンジ色のベストを身にまとい、ゴミを拾い集める参加者の皆さん